

アイガモ農法でおいしい米を全国へ

山寄 善平

1 経営概況

(1) 農家の概要

構成員	作物名	栽培面積	うち環境農業面積	備考
1名 (労働力3名)	水稻	3.8ha	2.2ha	高山村牧

(2) 各種認証制度の取得状況

- ・ 長野県環境にやさしい農産物認証 (平成19年度)
- ・ 信州の環境にやさしい農産物認証 (平成24年度)
- ・ エコファーマー (平成24年度～平成28年度)

2 経営の特徴

(1) 取組の経緯

- ・ 平成8年にホップの栽培(1ha)から水稻に経営転換した。
- ・ 牧地区の高齢水稻農家の水田を一手に引き受け、作業受託も含め現在3.8ha(内自作地25a)の経営面積となっている。
- ・ 水稻栽培当初から「安全・安心」の米作りを目指し、使用資材や栽培方法の研究を行い、堆肥の自作やアイガモ農法に取り組んできた。
- ・ 環境農業取組面積2.2haの内、アイガモ農法は1.5haで取り組んでいる。
- ・ 高山村アイガモ農法研究会(会員7名)のメンバーでもあり、技術的な相談役として重要な存在となっている。
- ・ 平成16年に、水田環境鑑定士の鑑定により、「水田環境特A-A」の指定を受けた。

(2) 環境農業の実践状況

- ・ 土づくりは、自家製の堆肥とモミガラくん炭を施用している。
- ・ 堆肥は、地域の竹林から採取した土着菌で発酵させ製造している。
- ・ 定期的に土壌診断を行い、診断結果に基づき適正施肥に努めている。
- ・ 肥料・農薬は、全て有機JAS規格の資材を使用している。
- ・ アイガモ農法以外の水田は、田植機を自作改良した除草機で機械除草を実施している。
- ・ 畦畔の除草を年5回実施し、カメムシの発生を抑えている。

(3) 消費者への情報発信等

- ・ 米は全量直接販売している。顧客は、北海道から沖縄まで全国各地。
- ・ NHKの情報番組で取り寄せ食材として紹介された他、他局番組でも多数紹介されている。
- ・ アイガモ農法や環境保全型農業に関心のある生産者や消費者の見学を随時受け入れている。
- ・ 顧客の中には、毎年山寄氏のほ場を訪れる者もいる。
- ・ 地元の旅館でも使用され、高評価を受けている。
- ・ 地元小学校の体験学習の受け入れも行っており、給食食材としても提供している。
- ・ また、小学校高学年に、アイガモでの稲作りについて出張講義を行っている。
- ・ 平成20年に第10回米・食味分析鑑定コンクール(山形県)で水田環境部門特別優秀賞受賞。

安全・安心な野菜を消費者に

J Aながの野菜部会信濃町支部

1 経営概況

(1) 農家の概要

構成員	作物名	栽培面積	うち環境	備考
			農業面積	
47戸	生食トマト	2.43ha	2.43ha	信濃町穂波
18戸	ピーマン	0.88ha	0.88ha	
9戸	ミニトマト	0.31ha	0.31ha	
3戸	なす	0.24ha	0.24ha	

(2) 各種認証制度の取得状況

- 信州の環境にやさしい農産物認証
生食トマト (平成13年度から毎年取得)
なす (平成14年度から毎年取得)
ピーマン (平成15年度から毎年取得)
ミニトマト (平成17年度から毎年取得)

2 経営の特徴

(1) 取組の経緯

- 「安全・安心」な「野菜」を、主に生協を通じ消費者に届けたいとの部会員の要望を受け、部会(支部)として環境にやさしい農産物の生産に取り組み現在に至る。
- 生協との取引は、平成13年から行っており、順次品目を増やしてきた。
- 現在生協へは、それぞれ生産量の生食用トマト3割、ミニトマト7割、ピーマン4割を出荷している。(なすは全量量販店へ出荷)
- 生協は、グリーンコープ(九州)、コープこうべ、コープネットへ出荷している。
- 生食トマトの部会員は、毎年1~2名ずつ増加している。

(2) 環境農業の実践状況

- 毎年、土壌分析を行い、データに基づいた肥培管理を行っている。
- 信濃町堆肥センターの牛糞堆肥(3t/10a)と発酵油かすアミノ酸肥料「土壌のこ」を施用し、土づくりを行っている。このため、土壌が軟らかく変化してきた。
- 有機質由来の窒素を含む資材を使用(化学肥料由来の窒素を地域慣行基準の50%以上削減)
- 除草剤は全く使用しない等、化学合成農薬を削減(地域慣行基準の50%以上削減)
- 部会活動として実施する栽培講習会では、病害虫の観察指導も行い、生産者が病害虫の発生状況に合わせJA防除基準から必要のない農薬散布を省いている。

(3) 消費者への情報発信等

- JAのホームページで、信州の環境にやさしい農産物認証の取り組み状況を公開している。
- 生協のパンフレットに、「特別栽培」の表示を行っている。
- 市場出荷用の段ボール箱には、環境にやさしい農産物認証のマークを印刷している。
- 生協へは、作業記録(栽培日誌)、資材購入記録等を毎年提出している。
- また、生協からは毎年、生産現場を訪れ、生産者と交流している。
- 特に、グリーンコープは、部会の総会に出席し、3年に1回の割合で取組状況を検査している。
- 支部内で生産した野菜を、地元の保育園へ食材提供している。

こだわりの資材で「おいしい米」作りを探究

なかまた農園 代表 仲俣 孝志

1 経営概況

(1) 農家の概要

構成員	作物名	栽培面積	うち環境 農業面積	備考
1名 (労働力3名)	水稻	12.0ha	5.53ha	飯綱町黒川

(2) 各種認証制度の取得状況

- ・ エコファーマー (平成21年度～平成25年度)
- ・ 長野県原産地呼称管理制度 (平成22年度から毎年認定)
- ・ 信州の環境にやさしい農産物認証 (平成23年度から毎年取得)

2 経営の特徴

(1) 取組の経緯

- ・ サラリーマンをしていたが退職し、平成19年に本格的に農業を開始した。
- ・ 就農当時からおいしい米づくりを研究し、就農3年目にエコファーマーを取得し環境にやさしい農業に取り組んできた。
- ・ 自分の栽培に合った有機資材等を研究するとともに、各種米のコンテストに参加し研鑽を積んでいる。

(2) 環境農業の実践状況

- ・ 土づくりに、稲ワラ 550kg/10a を秋に鋤き込む。
- ・ 堆肥の投入も検討しており、現在試験中である。
- ・ 毎年順番に土壌診断を実施し、診断データや生育状況を観察し適正施肥を実施している。
- ・ 元肥には発酵ペレット鶏糞を利用し、化学成分窒素を慣行基準より 61.8%削減している。
- ・ 天然珪酸資材の元肥施用と葉面散布により、健全な稲の生育を図っている。
- ・ また、天然塩を施用し、ミネラル成分の補給を行っている。
- ・ 化学合成農薬は、種子消毒の生物殺菌剤使用と機械除草により、地域慣行基準より 58.3%削減している。
- ・ JAや農業改良普及センターが開催する講習会等には積極的に参加し、病虫害の発生予察能力の向上等に努めている。
- ・ 資材会社の勉強会にも参加し、使用資材の研究を行っている。

(3) 消費者への情報発信等

- ・ 出荷は県内の米屋とJAを中心に、直売も若干行っている。
- ・ 地元の小中学校へ年3回、各1tを提供している。
- ・ ホームページを開設し、米作りの状況や商品情報を発信している。
- ・ また、包装の袋や名刺にQRコードを印刷し、ホームページを閲覧できるようにしている。
- ・ 食味の向上と品質保持及び消費者に「品質の確かさ」をPRするため、米のコンテストに参加し、研鑽を積んでいる。(H23 お米日本一コンテスト in 静岡 TOP30 入賞、H24 第14回米・食味分析鑑定コンクール(木島平村) 都道府県代表特別優秀賞、H24 第2回大阪府民のいっちゃんうまい米コンテスト M部門4位、H24「第2回米-1グランプリ in らんこし」入賞)